

# らぶらす

NO. **71**  
2015.7

巻頭インタビュー 照英さん

新しい自分を  
発見する経験の連続、  
それが僕の子育て。

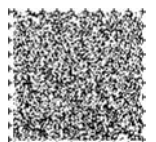
男女共同参画に関する  
区民意識・実態調査を実施しました

らぶらすなひと  
～交際相手との対等な関係の大切さを  
中高生に伝えていきたい～



この情報誌の表紙には、目の不自由な方などへの情報提供に役立てられている  
**音声コード**を印刷しています。

「音声コード」は紙に掲載された印刷情報をデジタル情報に変えたシンボルで、約2cm角の中に日本語（漢字かな交じり）で約800文字の情報を記録することができます。専用の活字文書読み上げ装置を使用して音声で内容を聞き取ることができます。「音声コード」の横には、視覚障害の方が触覚によりコードの位置を把握できるよう、切り欠きを入れています。







# 新しい自分を 発見する経験の連続、 それが僕の子育て。

恵まれた身体からだと明るいキャラクターが人気の照英さん。

一男一女のパパとして子育て情報番組の司会などでもおなじみです。

笑顔はもちろん、涙もろさでも愛される照英さんに、結婚、子育て、父親観、

そして世田谷区への思いを、熱い言葉で語っていただきました。

## 生き方を変えてくれた 妻との出会い

実を言うと、独身時代は子どもが苦手でした。俳優としてヒーローもに出ていたので、子どもと握手する機会や赤ちゃんを「抱っこしてください」と言われることは多かったです。どう接していいかわからなくて…。20代はとにかく、この世界で生き残らなくてはと毎日必死で、俳優に向いているのかもわからずに苦しくて。だから自分が結婚して家庭をもつなんて思ってもいませんでした。

そんな中、「この人といれば強くなるし元気でいられる」と思える女性と出会いました。彼女と一緒に暮らすために地方ロケ中心だった役を降り、俳優業をいったんリセット。結婚は、自分が納得できる仕事に向かう勇気をくれました。それだけでも生き方が変わったと思っていましたが、長男の誕生はさらに大きな転機になったんです。「自分の子どもはこんなにも愛おしいのか!」「今日から僕の人生にはこの子がいるのか!」と思うと、これ以上ないほどうれしくて。

をしつかりすることなどは子どもの頃から徹底していました。父が教えてくれた礼節の大切さは、自分の子どもたちにも伝えていきたいです。

幼い頃は何もしてくれない父だと思っていたけれど、自分が家庭もち、40歳になって振り返ってみると、父のとてつもない愛情をはっきりと感じることができました。だから「父親はこうあるべき」という正解はないんだろうと思います。答えが出るとしたら、それは成長した子どもたちがいつか僕に何か言ってくれる時でしょうね。

## 父になって知る 自分の父の偉大さ

これまでの自分の趣味はどうでもよくなって、今は子育てが趣味です。「そんな宣言して周りにプレッシャーかけるなよ」と、子どものいる友人には文句を言われますが、メディアに出る人間として、もっと子育てについて発信していきたいと思っています。

とはいえ、僕だって自信をもって子育てをしているわけではありませぬ。実は、自分の父とはちがう子育てをしているんです。

父はお堅い銀行員で、家においても視線の先は新聞かプロ野球中継。少年野球の応援にも来てくれませんでした。でも、二十歳の節目にくれた直筆の手紙には感動したし、肝心な時にはガツンと言ってくれた。礼節には厳しい人で、あいさつ



家族で出かけた沖縄旅行にて。お揃いのシャツを着た照英さんと子どもたち。

## 子どもの目の輝きが 親のしあわせ

長男が8歳、長女が5歳になった今、大事にしているのは外で一緒に遊ぶこと。家では家族に昼食を作ることもあるし、ゲームもしますが、幼い時期だからこそ心も体もふれあえる時間を大切にしたい。やっぱり体を動かすのが照英流です。

父子3人と愛犬1匹で、よく近くにある大きな公園へ行って散歩したり、走ったり、サッカーをしたりします。遊ぶ時に心がけているのは、子どもの目線になること。「パパは永遠の小学生だ! 負けないぞ!」なんて冗談を言って笑わせながら、本気で遊んでいます。本人たちが心から楽しんで、「パパといっぱい遊んだ」と満足するようなひとときにしたいと思っています。

ボールをうまく蹴れたとか、小さなことでもほめると、子どもって次のことに挑戦したくなるんですね。その時の子どもの目の輝きを見られるのが、親としてのしあわせを感じる瞬間です。子どもができてからそ

仕事柄、家にいられる時間は少ないけれど、いる時はとことん子どもに関わる生活になりました。忘れられないのは、長男をベビーカーに乗せて行った公園デビュー。8年前はまだイクメンという言葉も定着していなくて、公園でパパは浮いた存在だったからか、そこにいるお母さんたちに「照英、ヒマなのね」と陰口を言われたりもしました。これは悔しかった。自分が馬鹿にされたことより、子育てしたい父親を排除するような空気に腹が立って、逆に「もっと子どもを連れて歩こう」「もっと公園へ行くぞ」と心に誓いましたね。





# 男女共同参画に関する 区民意識・実態調査を実施しました

新たなプランの策定に向けて

世田谷区は、男女がいきいきと暮らす社会づくりに向けて、区民の方々の意識や女性の置かれている実態を総合的に把握するための意識調査を実施しました。この調査の結果は、今後の施策や新たな計画策定の基礎資料として活用していきます。

ここでは、13の調査項目の中から4つの項目についてご紹介します。性別に関わりなく、一人ひとりが互いを尊重し合うことの大切さを、この機会に考えてみませんか。

男女共同参画ってなんだろ？



## 「男女共同参画に関する区民意識・実態調査」報告書(平成27年3月/世田谷区)の概要

- 〈対象〉無作為で選んだ20歳以上70歳未満の区民の方3,000人
- 〈回答〉1,385人(女性810人、男性558人、性別記入なし17人)
- 〈調査項目〉①家庭生活と家族観 ②労働・職場 ③仕事と子育て ④介護 ⑤ドメスティック・バイオレンス(DV) ⑥社会参加・参画 ⑦「男女共同参画センター“らぶらす”」について ⑧男女平等観 ⑨男女共同参画社会の実現に向けて ⑩ワーク・ライフ・バランス ⑪防災 ⑫男性相談 ⑬性的マイノリティ(性的少数者)

※詳しい調査結果(報告書)は、男女共同参画センターらぶらす、区政情報センター(世田谷区民会館内)、総合支所区政情報コーナー、出張所・まちづくりセンター、図書館、区のホームページでご覧になれます。  
 個人情報・男女共同参画担当課  
 ☎03-5432-2259  
 ☎03-5432-3005

## 家庭生活と家族観

性別役割分担意識についてたずねた調査(グラフ1)では、「家庭や家事は女性、仕事は男性」といった固定的な意識に否定的な考えの人が男女ともに過半数を超えています。

一方で、家事は実際にはどのように分担されているのでしょうか？ 家事の実施状況をたずねた調査(グラフ2)では、家事を「いつもしている」のは、圧倒的に女性が多いという結果が出ています。

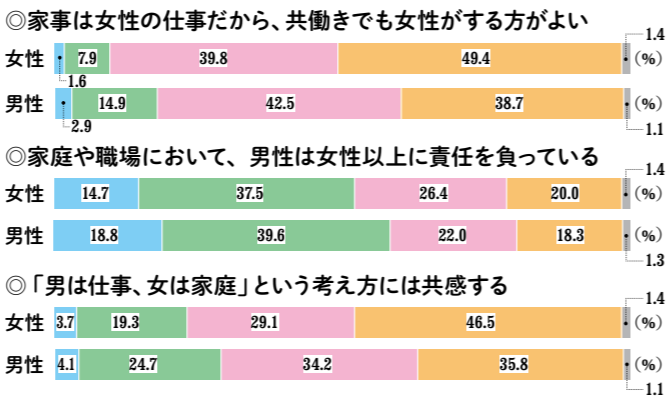
性別役割分担には否定的な意識と、家庭での家事の実態が大きくかけ離れている実情がわかりました。



男女別で見ると、温度差が…

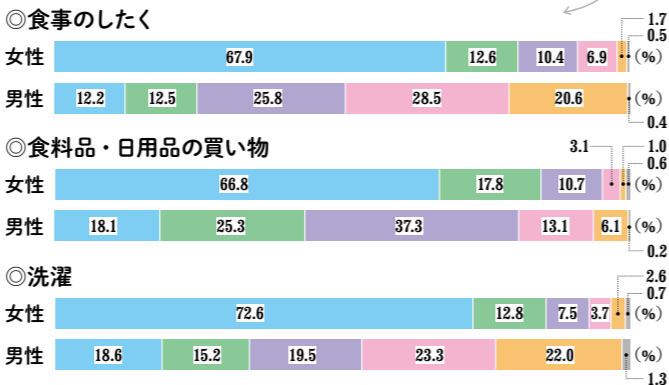
### グラフ1 性別役割分担意識

凡例：■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない ■ 無回答



### グラフ2 家事の実施状況

凡例：■ いつもしている ■ わりとよくやる ■ ときどきやる ■ 意識は平等、でも実際は…？ ■ ほとんどしない ■ まったくしない ■ 無回答



意識は平等、でも実際は…？

## 理想の父親になろうとしなくていい

極端に言うと、父親はそこにいればいい。理想の父親になろうと空回りしている間にも、子どもはどんどん成長します。まずはありのままの自分でいることが、かけがえのない父親になっていける第一歩かもしれないと思います。

おかげさまで今年、「ベスト・ファーザー賞2015」を受賞しました。とても光栄だと思う反面、わが子が



わいさに一生懸命やったことがたまにたま仕事につながっただけなのに、いただいているのかなとも思います。それに、世のお父さんたちに「僕のやり方が手本とは思わないで」と伝えたい気持ちもあります。

僕の父は仕事が忙しくてかまってくれなかったけれど、毎日家に帰ってきた。でも僕は仕事で家にいない日も多い。どっちがいい・悪いというのではないし、その家族それぞれの形でいいんだと思います。無理はしなくていい。でも必要なのは、子

## 家族がいることで自分も成長していける

どもへのちょっとした一言です。自分の趣味で出かけるときに「ついて来るか？」と言ってみるだけでいい。

ベビー用品店でうれしそうに何かを選ぶ自分なんて想像もしていなかったのにやっている、という「新しい自分」の出会いから始まり、子育ては知らなかった自分を引き出してくれる経験の連続です。

出演しているテレビ番組を家族と一緒に観る時の子どもたちの反応は、僕のパロメーターです。子どもたちが笑うと「見てくれてる人はこちら」というところが面白いんだと気づかされることもあります。家族から仕事の知恵をもらっている部分もあると思うし、「子どもを笑わせてあげられる自分」をしあわせだと感じます。

妻は太陽のような人で、彼女といれば大丈夫と思える存在。人生を変えてくれた大切な人、という気持ち結婚して10年経っても変わらぬし、もっともっと彼女のことを知り

たいと思っています。夫婦って、元々他人だった2人が家族になるものだから、たとえ意見がぶつかることがあったとしても、思いやりを忘れないようにと肝に銘じています。

世田谷区には結婚前から暮らしていますが、緑が多くて、子育てにはとてもいい環境だと思います。雨上がりの日に娘が窓を開けて「あ、森の香りがする」と言った時にはうれしくて胸が熱くなりました。子どもたちには四季や自然を体感しながら、感性豊かに、のびのびと育ててほしい。

僕も、子どもたちに負けずにまだまだ感性を磨いて、これからも新しい照英をお見せできるように頑張りたいと思っています。

### 照英(しょうえい)

1974年、埼玉県出身。東海大学体育学部卒。大学時代にやり投げの選手として全日本学生選手権とひろしま国体で準優勝。モデルを経て1998年に「星獣戦隊ギンガマン」(テレビ朝日)で俳優デビュー後、身体能力を競うバラエティ番組などで活躍。2005年にフリーアナウンサーの阿部和加さんと結婚し、2007年に長男、2010年には長女が誕生。「すくすく子育て」(Eテレ)の司会を2013年3月まで5年間務め、芸能界きってのイクメンとしても有名に。今年「ベスト・ファーザー賞2015」を受賞。現在は、情報番組、旅番組などに幅広く出演し、「親子で運動会を勝ちにいこう」(2011年 岩崎書店)などの著書も好評。

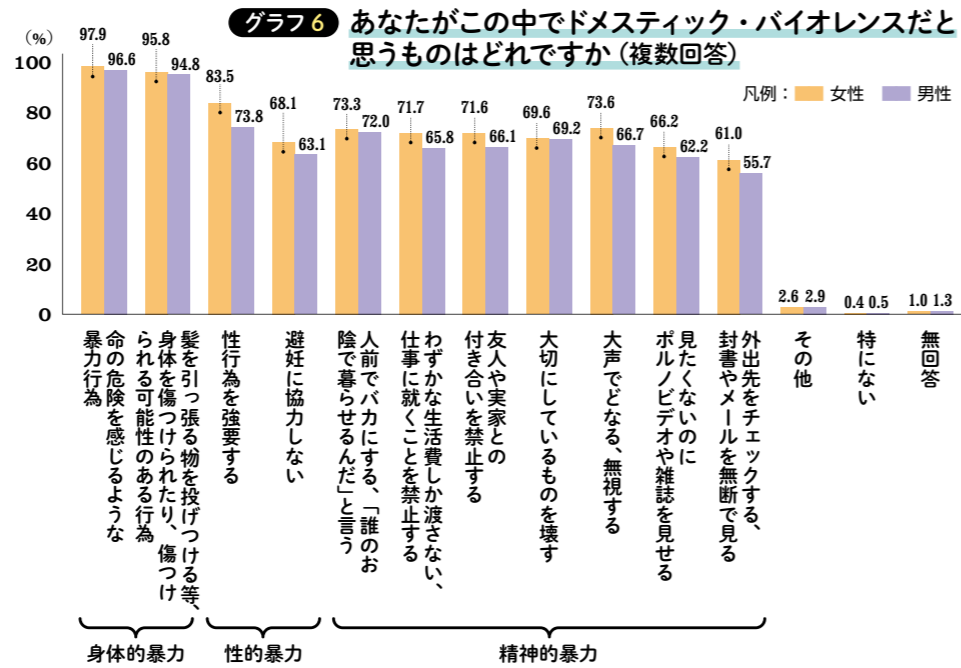


## ドメスティック・バイオレンス (DV)

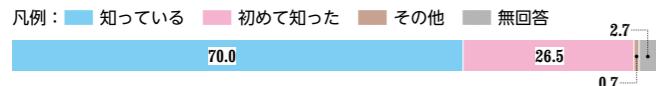
DV だと思ふ行為をたずねた調査(グラフ6)では、身体的暴力についてはほとんどの人がDVであるとしているのに比べると、性的暴力・精神的暴力については、意見が分かれる傾向です。

また、すべての項目で男性よりも女性の方がDVであると回答する割合が高く、男女で認識に差があることがうかがえます。

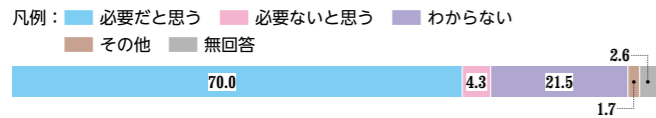
**世田谷区DV電話相談**  
☎03-5478-9201(相談日のみ)  
毎週月・金曜日(年末年始を除く)  
午前10時～午後9時



## グラフ7 性的マイノリティという言葉の認知



## グラフ8 性的マイノリティへの人権施策等の必要性



## 性的マイノリティ(性的少数者)

グラフ7・8を見ると、性同一性障害や同性愛者をはじめとする性的少数者のことを指す「性的マイノリティ」という言葉を知っている人は多数にのぼり、人権施策の充実が必要と考えています。多様な性のあり方を尊重する意識が定着しつつあるようです。

## 「(仮称)世田谷区第二次男女共同参画プラン」の策定に向けて



鹿嶋 敬  
Takashi Kashima

日本経済新聞編集局次長兼文化部長、編集委員、論説委員、実践女子大学人間社会学部教授(2005年～2015年)を経て現在、一般財団法人女性労働協会会長。内閣府男女共同参画会議議員、同計画策定専門調査会会長、東京都女性活躍推進会議会長等を兼務。著書に「恵子へ 結婚式の10日後、ポリビアで爆死した最愛の娘への鎮魂歌」(日本経済新聞出版社)、「男女共同参画の時代」(岩波新書)等。千葉大学文学部卒。

現在、第4次男女共同参画基本計画に何を盛り込むかの議論を内閣府で行っており、私もかかわっている。現時点では「案」の段階だが、同計画が目指すべき社会のひとつが「男女が自らの意思に基づき、個性と能力を十分に発揮できる」社会だ。これが2016年から2020年にかけての、政府の男女共同参画施策の「基本的な方針」になる。

そんな視点から世田谷区が行った男女共同参画に関する区民の意識・実態調査結果を見ると、いろいろ考えさせられる。「自らの意思に基づき」生き方の阻害要因になりかねない性別役割分担(男は仕事、女は家庭)の支持率は、男女共に2割台と低い。国の調査では、それは4割台に跳ね上がる。

政府が掲げる「女性活躍推進」も家事や子育て負担を女性に任せている、実現などほど遠い。その点、世田谷区は男性の理解も進んでいるが、現実生活ではどうかと言えば、実際に炊事、洗濯、掃除を行っているのは女性たちだ。

頭では理解していても、現実には家庭周りは妻任せ。調査結果はそんな世田谷区の夫婦関係を浮き彫りにする。いや、世田谷区に限らず、多くの家庭が似たり寄つたりの状況ではあるが、それでは「2020年までに指導的地位の女性を3割に」などといった、実現はおぼつかない。炊事や洗濯などのほか今後比重が増す介護も含め、家庭内の労働を夫婦間でどう分担するのか、真剣な議論が必要だ。

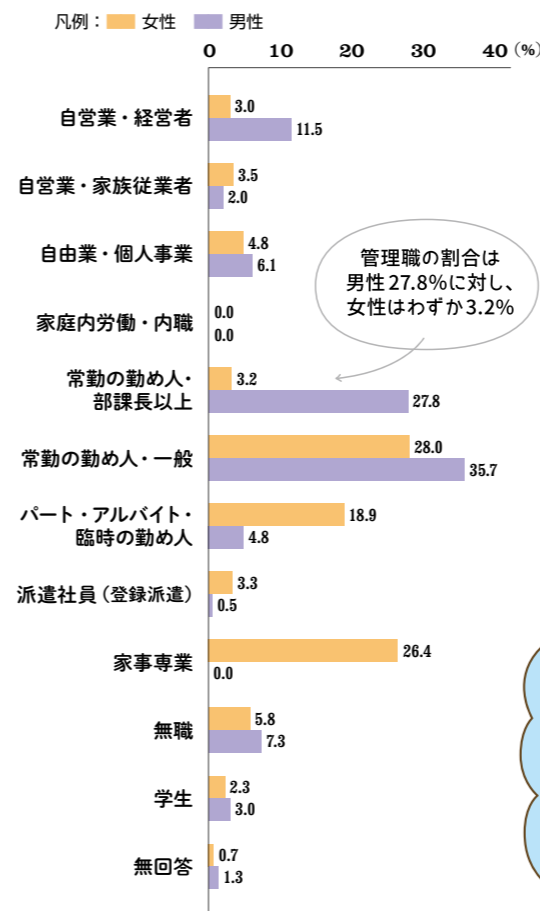
## 家庭内の労働 男女でどう分担？

内閣府男女共同参画会議議員  
一般財団法人女性労働協会会長  
鹿嶋 敬

## 労働・職場

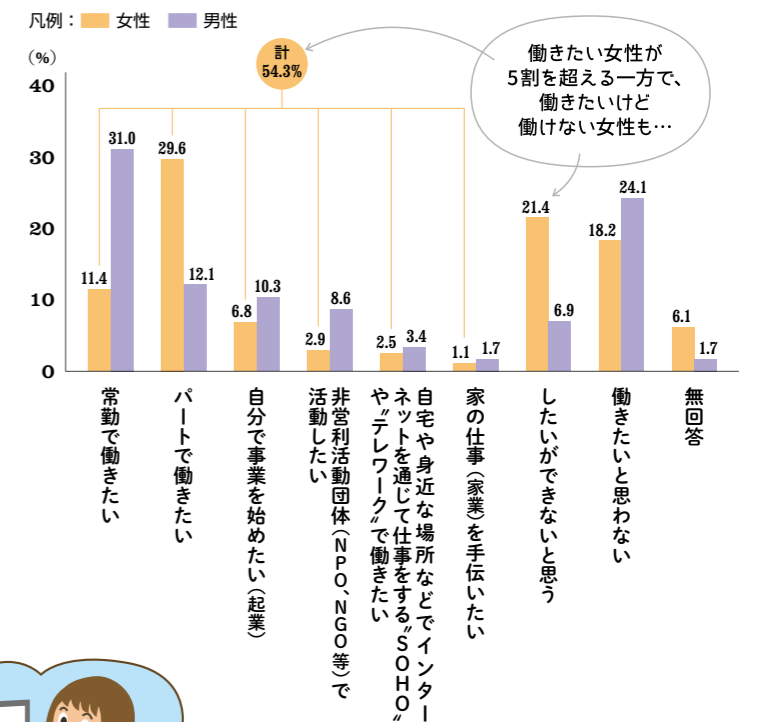
職業をたずねた調査(グラフ4)では、女性の就労率は6割を超えていますが、「家事専業」の人も少なくありません。就労形態を男女で比較すると、女性にはパートや派遣社員などの非正規雇用が多く、常勤でも管理職が極めて少ないことがわかります。

## グラフ4 あなたの職業は次のどれですか



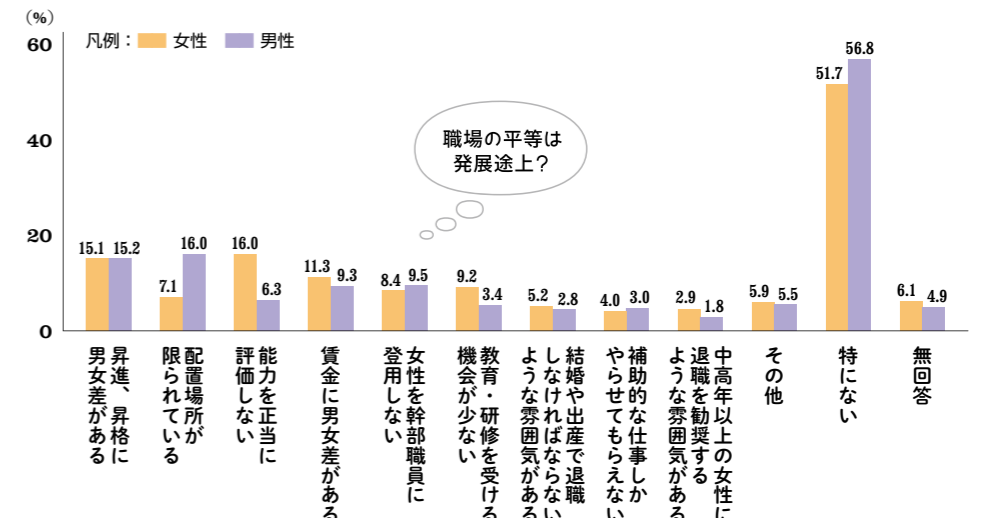
働いていない人に就労意向をたずねた調査(グラフ3)では、何らかの形で働きたい意向を示している女性は、合わせて54.3%にのぼります。同時に「したいができないと思う」という回答が、男性に比べて明らかに高くなっています。

## グラフ3 あなたは、今後仕事や社会活動をしたいと思いますか(現在働いていない方のみ回答)



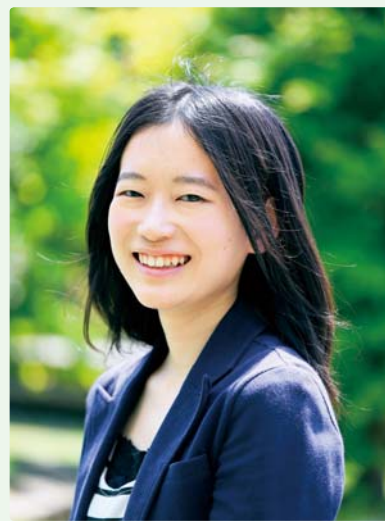
## グラフ5 あなたの職場では、仕事の内容や待遇面で、女性に対して次のようなことがありますか(複数回答)

職場での女性への差別についてたずねた調査(グラフ5)では、「特になし」が男女ともに半数を超えています。複数の項目で差別を指摘する回答も見受けられます。性別による職場での差別は男女雇用機会均等法で禁止されていますが、いまだ課題はあるといえそうです。





# 交際相手との対等な関係の大切さを 中高生に伝えていきたい



デートDV防止プログラムファシリテーター  
**福井沙依さん**  
SAE FUKUI

交際相手からの暴力、いわゆる『デートDV』を防ぐため、世田谷区立男女共同参画センター「らぶらす」では区内の中学・高校で「らぶらす」校出前講座（デートDV）を実施しています。その講座でファシリテーター（進行役）を務めているのが福井沙依さんです。福井さんが『デートDV』について知ったのは、大学生が対象の「デートDV防止プログラムファシリテーター養成講座」がきっかけでした。

「養成講座を受けるまで『デートDV』に関心が高いわけではありませんでした。でも、言葉で傷つけることや相手を束縛することなども、暴力だと理解すると、『デートDV』はどこにでもある話なんです。自分も相手も大事にする対等な関係の大切さを、

まだ交際経験が少ない中高生に伝えるのは重要だと思いました」

中高生にとって、親でも先生でもない、少し年上の大学生が自分の言葉で語る体験や思いは、大人が伝える以上の説得力があります。アンケートには「大学生の話がわかりやすかった」との意見が多数あったといいます。

「私自身は今春から社会人になりましたが、これからは『デートDV』に関する活動は続けていくつもりです。新たにファシリテーターになった大学生に、ファシリテーター1期生として私が培った経験を引き継いでいけたらと思っています」

若い世代からまた次の若い世代へと、『デートDV』をなくすためのバトンがつながりはじめています。

※27年度も8月から「デートDV防止プログラムファシリテーター養成講座」を実施します。詳しくは下記「らぶらす」までお問い合わせください。



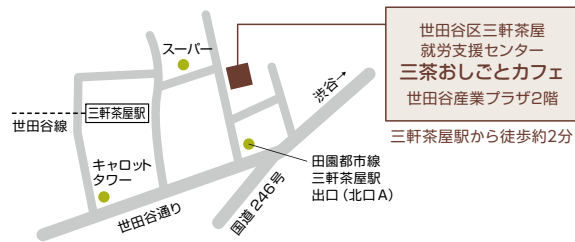
## 三茶おしごとカフェ (世田谷区三軒茶屋就労支援センター)

「仕事が決まらない」「応募書類の書き方を相談したい」など、仕事に関するさまざまな相談に、予約なしで専門のスタッフが対応します。就職情報や資料の閲覧ができるほか、各種セミナーや面接会なども開催しています。キッズスペースを完備しているので、お子さん連れの方も気軽にご利用ください。

〒154-0004 東京都世田谷区太子堂 2-16-7 世田谷産業プラザ2階  
☎03-3411-6604 FAX03-3411-6690

【利用時間】午前9時～午後5時（土・日・祝日・年末年始を除く）

【ホームページ】<http://www.setagaya-icl.or.jp/oshigotocafe/>



※ワークサポートせたがや[ハローワークの職業紹介窓口]も併設しています ☎03-3413-8609

## 世田谷区立男女共同参画センター “らぶらす”

〒155-8666 東京都世田谷区北沢 2-8-18

北沢タウンホール 9～11階

☎03-5478-8022 FAX03-5478-8026

【開館時間】午前9時～午後10時

【休館日】毎月第3月曜日および年末年始

【施設概要】研修室、情報・交流コーナー、子ども室、資料コーナー、授乳コーナー ほか

【らぶらすホームページ】<http://www.laplace-setagaya.net/>

世田谷区ホームページ → 施設 → 暮らし・生活関連施設 → 男女共同参画センター“らぶらす”をご覧ください

